

令和7年度 調布市立調布中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
◎自ら学び深く考えよう ○礼儀正しく思いやりの心をもとう	○身体を鍛えたくましく生きよう ○勤労を重んじ進んで奉仕しよう
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
「皆の笑顔が輝く、活気と潤いのある学校」←「かかわりを大切に」 (1) 磨き合い、伝え合い、<u>学び合い</u>＝「分かる・できる喜びが味わえる学校」 ・主体的問題(発見)解決能力の育成(学び合い)…<u>主体的・対話的</u>で深い<u>学び</u>を目指す ・特別支援教育の充実(ユニバーサルデザイン, 不登校巡回指導教員, S S W等の活用) ・指導と評価の一体化 (2) 認め合い、心の通い合い、自分との向き合い＝「笑顔のあいさつと思いやり溢れる学校」 ・環境による教育(清掃, 掲示, 挨拶, 礼儀, 朝読書, 笑顔, <u>教職員のチームワーク</u>) ・生徒の主体性や特性を理解した指導 ・温かな生徒理解に基づき, 課題を早期に発見し共通理解のもとに指導(学年担任制の導入) (3) 支え合い、声のかけ合い、話し合い＝「自らの役割を意識しチームで動く学校」 ・(全職員)みんなで(全生徒)みんなを」育てていく…<u>笑顔のチーム</u>(仲間, 家族)調布中! ・「報・連・相・確」の徹底と迅速な対応 (4) かかわり合い、出会い、励まし合い＝「様々な人とのかかわりを深める学校」 ・集団の中での役割意識と一人一人の活躍の場所(自分の居場所, 自尊感情, 達成感) ・学校公開と情報発信「見える学校」 (5) 学び合い、高め合い、見せ合い＝「教師自らが学び続け高め合う学校」 ・校内研究やO J Tの充実(授業を通じた研究の継続と主体的な研修による学び合い)	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	現状：生徒は意欲的に学習や諸行事に取り組み、落ち着いた学校生活を送っている。 課題：授業力及びデジタル技術の活用力向上

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした 育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、国語の学習を通して自らの思いや考えを言葉で適切に表現し、言語情報を正確に理解する力を高める。	・タブレットを使つての意見共有や対話的な学習を取り入れることで、自らの考えを言葉で表現したり、他者の考えを理解しようとする機会を増やし思考力を高めるとともに、形成的評価の機会とする。 ・国語学習を通じて「話すこと・書くこと」での論理的な表現の型を教えることで、他教科や生活の中での伝える力を高める。
社会	授業で得た基礎・基本の知識をもとにして、生活や経験に絡めながら自分なりに思考し、考えを表現したり、問題を解決する能力を育む。	・一つの事象に対して様々な観点から物事を捉えさせるために、写真資料や新聞記事など身近なものを提示する。それをもとにした思考、ペアの話し合いを通して、小集団での学習や、クラス学習などに広げていく。 ・毎時間ごとの振り返りや、I C T機器を活用し、知識の定着や考え方の工夫が行えるようにしていく。
数学	生徒の実態を把握し、数学の学習を通して、基礎的・基本的な内容の定着を目指す。また、伝え合いや学び合いを通じてより良い人間関係を形成し、様々な意見や考え方のやり取りを通じて課題解決能力を育成する。	・毎授業の振り返りをさせることで、生徒の実態を把握し、次の授業に生かしていく。 ・協働学習を通して、互いの意見や考えを出し合い、議論する場面を意図的に設定したり、考える力を育成する課題設定をしたりする。
理科	実験や観察を行い、解説することで現象を理解する力を養う。また、話し合いを通して様々な考え方に触れることで、多角的に物事をみる力や創造性を育成する。	・実験を行い、結果から考えられることをグループで共有することで理解を深める。また、身近なものに関連づけることで理科に興味を持たせる。 ・振り返りシートを用いて学びを深め、次の授業に活かすことで、さまざまな事象に関連付けさせ、多角的視野を養う。
音楽	「美しい歌声の響く学校」を目指し、わかりやすい授業を通して、わかる、できる経験を重ね、自信をもって演奏し、笑顔で過ごすことのできる生徒を育成する。	お互いの演奏や曲の感想を伝え合う時間を設定し、様々な意見を取り入れて考えを深め、能力を伸ばし、音楽の楽しさを感じ、のびのびと演奏できる力を養う。

美術	生涯を通じて美術を愛好する気持ちを育むために、表現の技能だけでなくグループワークや生徒相互による作品鑑賞を通して、それぞれの個性や良さを発見し、多様な視点に気づくことで、主体的に創造活動に還元していく能力を育む。	・単元の最後に講評会を行い、相互にコメントの意義付けをして振り返りを行う。 ・美術室前廊下や渡り廊下に定期的に作品を展示し、鑑賞し、自らのイメージを膨らませることに役立てる。 ・タブレットを活用し、美術の授業と身の回りのアートの相関性を考えさせる。
保健体育	運動の得手不得手にかかわらず、運動に親しむことを第一の目標とする。 主体的に取り組み、積極性、協調性、思考力・判断力を養い生涯を通して活用できる知識を習得する力を育てる。	・男女共修の実践。活動内容に応じたグループ学習や練習方法の工夫、視聴覚教材の工夫を行う。 ・学習カードや振り返りシート、ICT を活用し、運動を視覚化、言語化、客観的にとらえられるようにする。 ・定期考査において記述問題等を設定することで、活用された知識の言語化を図る。
技術・家庭	<u>技術科</u> 実習や課題に対して、主体的に取り組み、課題を解決する力を養いながら、ものづくり等に意欲的に活動する生徒を育てる。 <u>家庭科</u> 自らの衣食住に関する生活の興味関心を高め、よりよい生活の実現に向けて、工夫し、創造する力を育てる。	<u>技術科</u> ・実践的・体験的な活動を通して、技術と生活や社会、環境の関わりについて考えることができる。 ・生活や社会の中から課題を見出し、協働的に課題を解決する力を養う。 <u>家庭科</u> ・ICT 等を活用し、生徒の実態に即した題材を取り上げ、興味関心を高める。 ・グループ活動を行い、互いの意見を交流することで、深い学びになるよう指導していく。
外国語 (英語)	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、外国語で主体的にコミュニケーションを図る資質・能力を養う。 少人数授業を活用し、生徒が他者との対話を通じて、認め合い高め合う姿勢を育てる。	・毎時間の授業において課題設定をし、ペアやグループ学習を通して学び合い、対話を通して主体的に課題を解決するしかけをつくる。 ・パフォーマンステストを行い、表現力を伸ばす指導を行う。 ・毎時間振り返りを行い、生徒の実態を把握し、次に生かす。 ・課題や単元ごとの振り返りシートを通して、家庭学習の定着を図る。
道徳科	自他の生命とその多様性を尊び、他者や社会との関わりの中で協働し、学びあいながら、これから出会うであろう困難や問題に対し、行動していくために、主体的・対話的な会話を通じ、深い学びを目指す。	・教師の発問に対し、個人で考える時間→小集団で話す時間→全体で共有する時間とすることで、自分が考えていなかったような新しい発見をすることができると思われる。 ・生徒が深く考えていけるような発問を意識していく。